



札幌市  
豊平区  
千歳市

## 森ボラ協議会



### 森林のボランティア活動

森ボラ協議会は、札幌市豊平区の澄川都市環境林、有明第2都市環境林、そして千歳市の支笏湖水明郷の森、また交付対象外ですが、苫小牧市や江別市などの国有林・道有林で活動しています。会員数は70名です。

これらの森では、まず倒木・傾斜木・枯損木の整理、受光間伐といった「整理伐」をしてから、下草刈りや植栽などを行なっています。またその成果を、標準木調査・水質調査・水生昆虫調査といったモニタリングで絶えず確認しています。伐採木は製材、薪、キノコのほだ木などに加工して利用していますし、安全な林内作業のための講習会を開いたり、チェーンソー技能安全研修会に参加したりしています。活動日数は年間46日ですが、この2年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、従来の70~80%に減ってしまいました。

澄川都市環境林(65.1ha)は、かつて薪炭林として利用されていた広葉樹の二次林で、アジア太平洋戦争後のエネルギー革命以降、長らく放置されていました。私たちは、ここに「豊かな生き物を育む巨木の森」を再生するという目標を立てて、2013年に活動を開始しました。9年目となる2021年までのモニタリング(3カ所)結果をみると、たとえば「相対幹距比」の指標では、3.0ポイント上昇の当初目標値に対し、それぞれ1.9、4.0、4.7ポイントの上昇がみられ、おおむね目標を達成できていることが確認されました。また最近5年間の標準木(約160本)の追跡調査では、樹種によって異なりますが、胸高直径で1~4cm、樹高で1~4mの成長が見られました。

有明第2都市環境林(14ha)もまた、長く放置されていた針広混交林です。枯損木処理を終えてから、ギャップ地の下草を刈って植栽し、食害防止対策を施したり、急傾斜地に階段状の作業道を設置したりしました。

支笏湖水明郷の森(国有林、17.8ha)は、2004年の台風で甚大な倒木被害が起きた森です。私たちは2009年以降、針葉樹6000本と広葉樹3700本を植樹し、下草刈りや補植などを進めてきましたが、やはりシカ・ウサギ・ネズミの食害に悩ま

されています。2019年からは、森の中央付近の3haを交付金対象地を選んで、広葉樹列に1000本のトドマツ補植を行ないました。ここでも下草刈りや作業道整備などの手入れと、モニタリング調査を継続しています。

なお、推奨される10m四方の調査区でのモニタリングは、私たちの森では実態をつかみづらいので、4倍の広さの20m平方区も併用しています。私たち森ボラ協議会の母体であるNPO法人北海道森林ボランティア協会は、親子森林教室と銘打って、年7回の林内イベントを開いています。今年度も15家族23人の子どもが参加して、キノコの植菌や植樹、ノコギリを使った立木の伐採などを体験しました。

また、地元の札幌市立澄川南小学校の3~6年生を対象に、年15回ほどの学習支援を行なっています。今年初めて、子どもたちと一緒に林内のゴミ拾いをやったのですが、長年放置されていた都市近郊林のゴミの多さに、みんな驚いていました。最後に課題を申し上げると、私たちの構成員の80%は定年退職者ですけれども、近ごろの定年延長で「新入会員」の高齢化が一段と進んでいます。また、札幌周辺は個人所有林が少なく、ボランティアが自由に活動できる森を探すのも一苦労です。こうした活動を自己収入で賄えたらよいとは思いますが、現状では、森林保全活動は助成金や補助金なしでは継続は難しいと感じます。このような森林活動が永遠に引き継がれていくことを願っています。



【報告者】



大窪健一さん